

米代川総合水系環境整備事業

事業評価要約書

平成25年12月

国土交通省 東北地方整備局 能代河川国道事務所事務所

事業名		米代川総合水系環境整備事業	事業主体	東北地方整備局
事業の概要	事業区間	米代川 あきたけんおおだてし 自：秋田県大館市 あきたけんのしろし 至：秋田県能代市	整備内容	【整備済】 ・水辺整備 1地区 【整備予定】 ・水辺整備 1地区
	事業着手	平成19年度	工事着手	平成19年度
	全体事業費	全体：約1.8億円 (うち、残事業費 約1.0億円)	平成18年度 新規事業採択時評価 事業費	約6.6億円

事業の目的

豊かでうるおいのある河川空間の創造を目的に、河川の自然環境の保全、河川利用の促進等を図るものである。

【水辺利用】

米代川流域には、世界遺産に登録されている「白神山地」をはじめ、日本最大規模のクロマツ林「風の松原」、明治天皇ゆかりの「きみまち阪県立自然公園」などの景勝地が分布しており、良好な自然環境が存在している。米代川の堤防や河川敷では、散策やスポーツ等の利用が行われており、水域では、釣りやカヌー等の利用や各種イベントが盛んに行われている。

また、米代川沿川には、かつて舟運がもたらした歴史・文化が残されているとともに、江戸時代後期の紀行家「菅江真澄」が沿川の土地の風土などを豊かな図絵と文章で書き残しており、米代川の歴史・文化を核とした観光資源としての活用が求められている。



以上を踏まえ、「米代川水系河川整備計画」および「米代川水系河川環境管理基本計画」の基本理念に基づき、水辺整備に関する事業を実施するものである。

米代川水系河川整備計画 基本理念

悠久の流れに 人と豊かな自然が織り成す 杉かおる 米代川

- ① 安全・安心の川づくり
- ② 豊かな自然を次世代に引き継ぐ川づくり
- ③ 豊かな暮らしを支える川づくり
- ④ 地域の活性化に寄与する川づくり
- ⑤ 住民参加と地域連携による川づくり

米代川水系河川環境管理基本計画 基本理念

杉かおる 清き流れに 今ふれあいをめざす 米代川

- ① 豊かな自然と清らかな流れにふれあえる米代川
- ② 秋北の豊かさと明日への活力を生み出す米代川

事業の目的

なお、これまでの環境整備については、拠点としての整備が主体であったが、「かわ」と「まち」を一体として捉え、観光振興・地域活性化を念頭においた「かわまちづくり」により、面的な広がりを見せている。

このように、河川利用の推進を図りつつ、地域の活性化や水系自体の観光振興等にも寄与し、発展していくことを期待するものである。

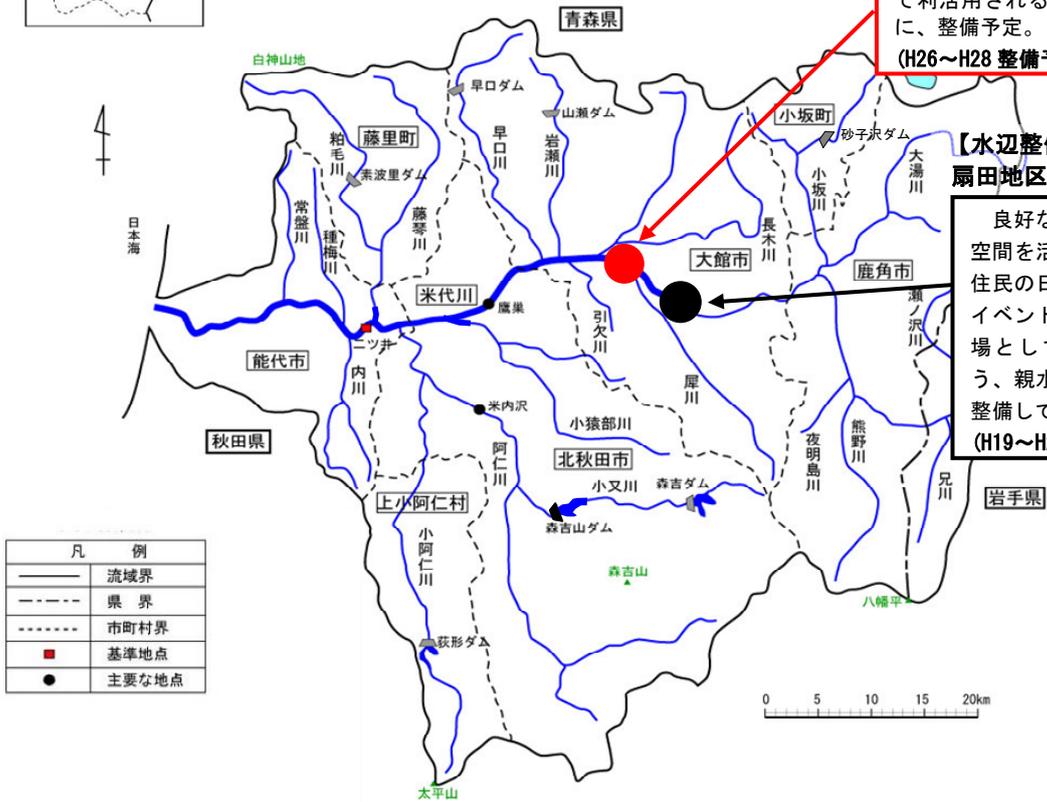


**【水辺整備】
根下戸地区かわまちづくり**

良好な自然環境及び河川空間を活かしながら、スポーツや地域イベント活動の場、地域の賑わいの場として活用されることを目的に、整備予定。
(H26~H28 整備予定)

**【水辺整備】
扇田地区河川環境整備事業**

良好な自然環境及び河川空間を活かしながら、地域住民の日常の利用、地区のイベント活動や伝統行事の場として活用されるよう、親水護岸や散策路等を整備している。
(H19~H20 整備済)



凡 例	
——	流域界
---	県 界
----	市町村界
■	基準地点
●	主要な地点



凡 例	
●	: 整備済箇所
●	: 整備予定箇所

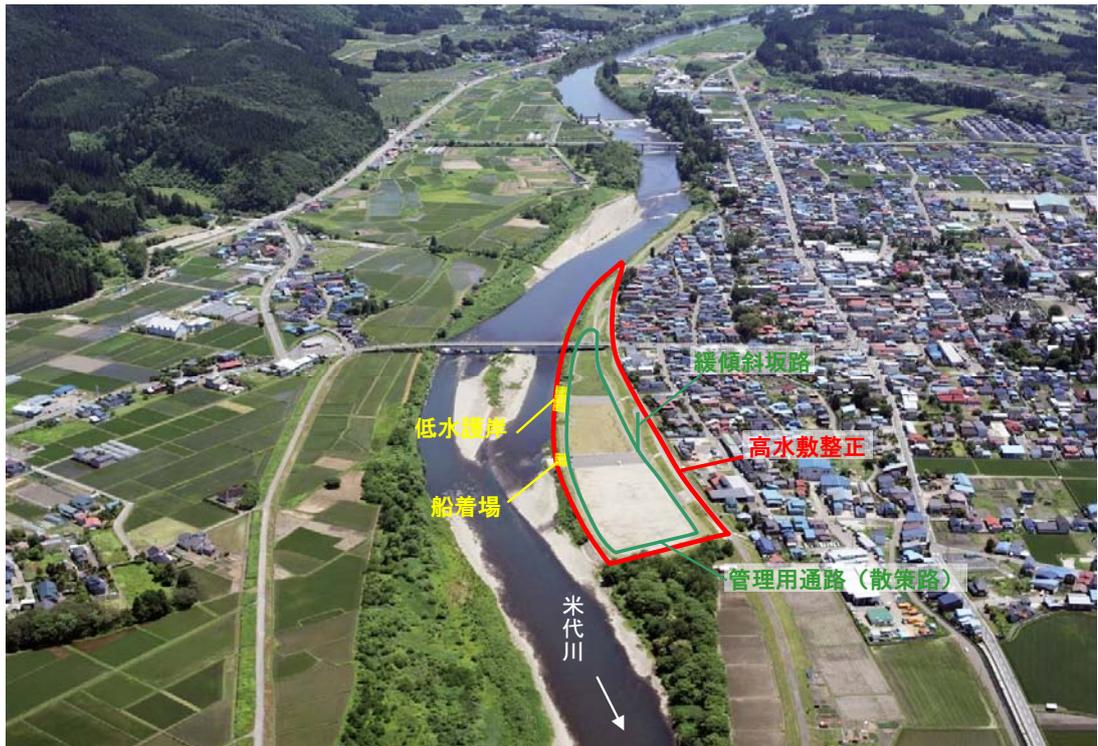
【整備済】水辺整備（扇田地区河川環境整備事業）

〔概要〕 扇田地区は、灯籠流しや送り太鼓等の伝統行事のほか、散策、釣り、花火大会等に利用されている。

これらの利用促進と良好な水辺空間の創造を図るため、地域住民が主体となった「米代川扇田地区河川緑地協議会」で策定した環境整備計画に沿って、階段護岸や高水敷整正、管理用通路（散策路）等の整備が行われている。

現在は、地域住民の日常の利用や、カヌー体験やサッカー教室等の地区のイベント活動、灯籠流しや踊り太鼓等の地域の伝統行事の場として利活用されている。

〔整備内容〕：管理用通路（散策路）、高水敷整正、低水護岸 等



〈整備の状況〉



〈伝統行事での利用状況〉



〈イベント状況〉



〈整備箇所の利用状況〉



〈整備箇所の利用状況〉

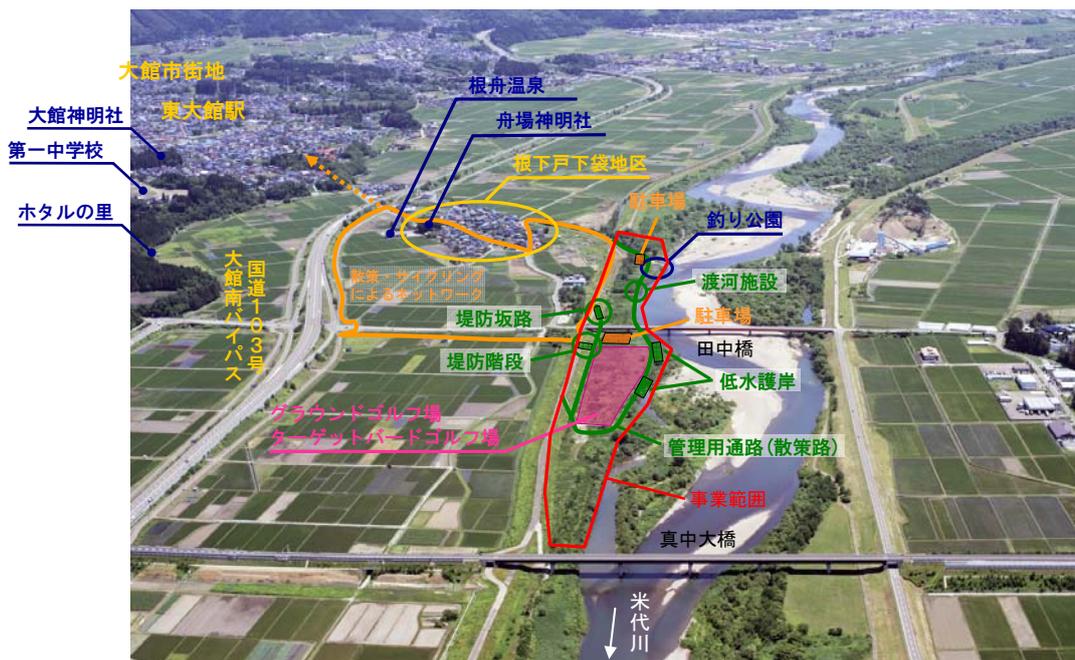
【整備予定】水辺整備（根下戸地区かわまちづくり）

〔概要〕：根下戸地区は、かつて舟運が盛んであった時代に舟場として荷物の積み下ろしが行われた、川との関わりが深い地区である。

地元小中学校による水生生物調査等の環境学習の場としての利用や、地元の釣り大会の開催が行われるなど、河川利用に対するニーズも高い地区である。

当地区の利用促進と良好な水辺空間の創出を図るため、地域住民が主体となった「根下戸地区かわまちづくり懇談会」により、整備計画や、利活用・維持管理計画を検討している。

〔整備内容〕：管理用通路（散策路）、低水護岸、堤防階段、高水敷改正 等



事業内容

〔効果〕：大館市に近い当該地区周辺には親水的な空間が乏しいことから、グラウンドゴルフ等のスポーツや、地域イベント等に活用されることで、地域の新たな賑わいの場・地域交流の場が創出される。東大館駅に比較的近いことから、川やまちを散策、サイクリングすることで、米代川を中心とした豊かな自然や大館市の歴史・文化を満喫することができる等、観光振興への寄与が期待される。平成25年4月には「根舟温泉」が完成しており、更なるネットワークの拡大と、地域活性化が期待される。



〈環境学習〉



〈釣り〉



〈米代川の川下り〉

【米代川水系における河川利用の動向等】

米代川における「河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）」による年間利用者数の推移は以下のとおりである。米代川全体では、年間の利用者数は年度によってバラつきはあるが、毎年 30～50 万人が利用している。

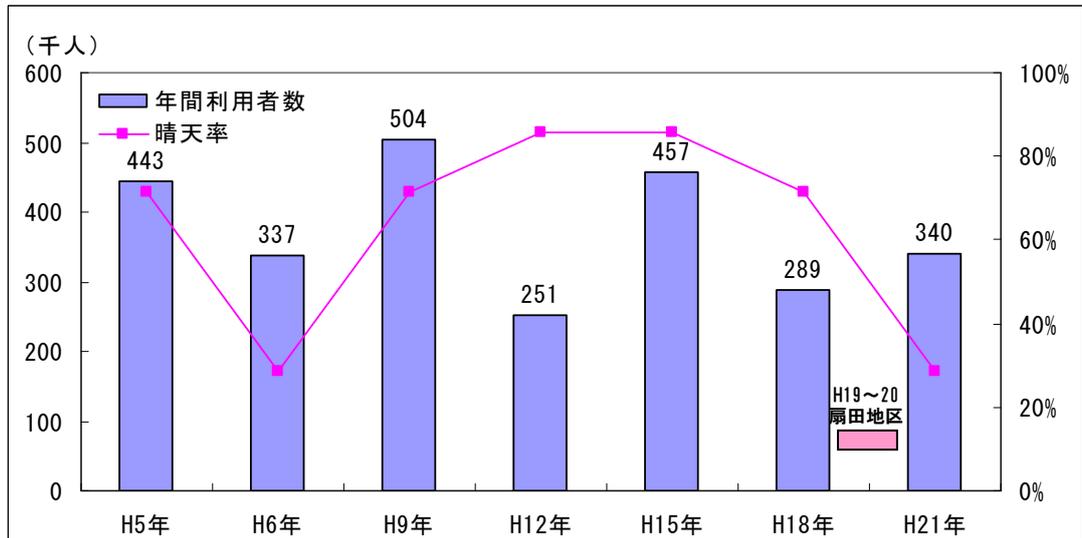
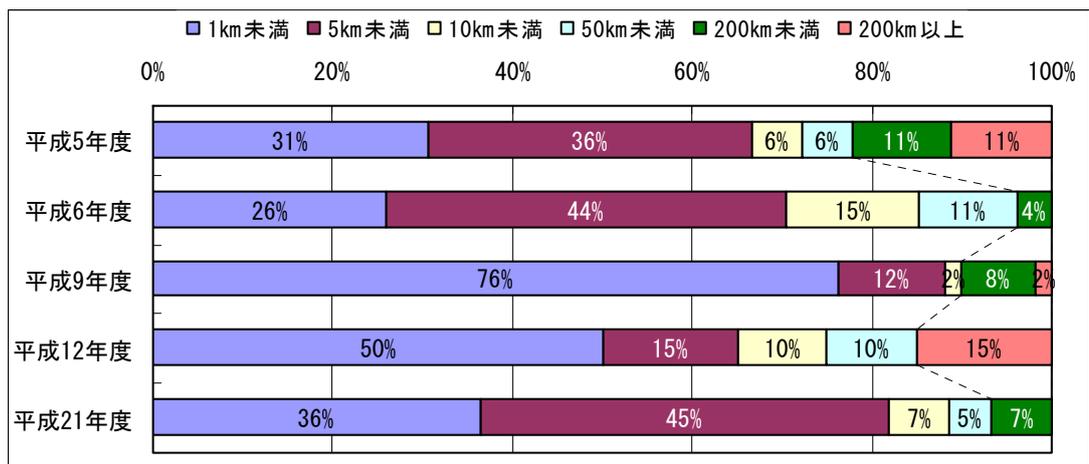


図 米代川水系全体の年間利用者数の推移

【米代川水系における来訪者構成比】

米代川水系全体での来訪者構成比をみると、概ね 50 km圏域以内から来訪している。



(河川空間利用実態調査アンケート結果より)

図 米代川水系における来訪者構成比

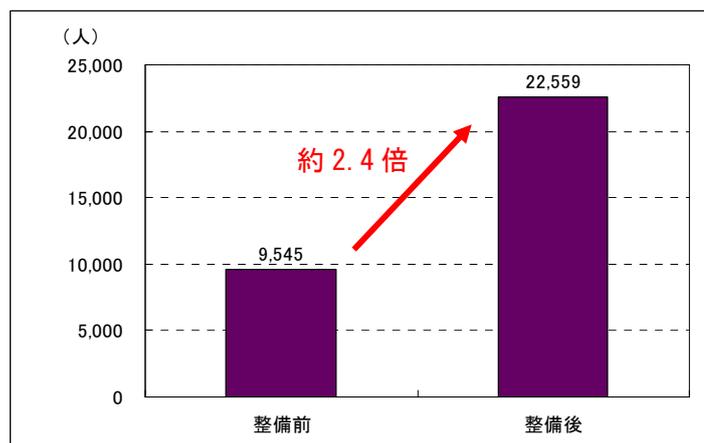
事業内容

【扇田地区における整備前後の年間利用者数の変化】

扇田地区は、地域のお祭りやイベント等に利用されており、利用者が増加している。

表 扇田地区の整備前後の利用者数の変化

	整備前	整備後
年間利用者数	9,545	22,559



整備前: 当該地区のH5～H18の利用実態調査より推計

整備後: 当該地区のH24の利用実態調査より推計

【地域の協力体制（河川清掃活動等）】

- ・ 扇田地区では、整備を契機として管理組合が発足し、地域住民による清掃活動など、河川環境改善に向けた活動が行われている。



〈中学生による河川清掃〉



〈町内会等による除草作業〉



〈地元団体による河川清掃〉



〈公園管理組合により設置された花壇〉

【地域主体の推進協議等（かわまちづくり）】

- ・ 扇田地区では、平成 20 年 2 月から民産学官（地域・市・国）による「米代川扇田地区水辺整備ワークショップ」が 5 回開催され、良好な河川空間の整備や適正な維持管理体制等について意見交換が行われた。



〈ワークショップの様子〉

- ・ 根下戸地区では、平成 25 年 7 月より地域主体による「根下戸地区かわまちづくり懇談会」が開催されており、地域の憩いの場として整備や整備後の利活用、維持管理等について意見交換が行われている。



〈第1回懇談会の様子〉



〈第2回懇談会の様子〉

費用便益分析

【費用対効果分析】

①評価手法

便益の評価手法は、「河川に係る環境整備の経済評価の手引き」等に基づき、事業の特性等を踏まえて選定している。

○水辺整備：利用価値が主体であり、客観的で恣意性の少ない「TCM法」を適用。

②算定の考え方

○TCM法：事業実施前後の河川空間利用実態調査及び各地区で行われるようになったイベント等を参考に、整備による利用者の増加数を旅行費用（移動費用並びに時間費用）に換算して算出。

【費用便益比】

■ 今回のB/C

- 全体事業 (H19~H33) : B/C = 1.6
- 残事業 (H26~H33) : B/C = 1.2

■ 前回評価時のB/C

B/C = 3.4

【前回からの主な変更点】

■ 利用者数、単価等の更新

事業の投資効果

今回の検討 (H25)	前回評価時 (H18)
① 便益算定に係るデータの更新	
<p>【水辺整備事業：TCM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備後の利用者数： H5~H24 河川空間利用実態調査結果、及び、各年のイベント等参加者を反映した整備後の平均利用者数 ・市町村人口（整備後）： 平成24年の推計人口データ（総務省統計局） ・来訪者構成比（累積構成比）： H2~H24 河川空間利用実態調査結果（H24については事業評価のため扇田地区のみ河川空間利用実態調査を実施） ・ガソリン単価： 140円/L（東北の5カ年平均：H20~H24） <p>※移動単価 =ガソリン単価÷燃費÷平均乗車人数 =140円/L÷17.4km/L÷1.31人 =6.1円/km</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間費用原単位： 15.2円/分（東北のH24毎月勤労統計調査結果より） 	<p>【水辺整備事業：TCM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備後の利用者数： H15 河川空間利用実態調査結果の薄井運動公園の利用者数と雄物川の訪問率を参考に設定 ・市町村人口（整備後）： H18年の住民基本台帳 ・来訪者構成比： 雄物川事例より設定 ・ガソリン単価： 132円/L（燃費10km/L、平均乗車人数1.32人（H11道路交通センサス）、移動単価より逆算） <p>※移動単価 =10.0円/km（大規模公園費用対効果分析手法マニュアルより）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間費用原単位： 14.6円/分（秋田県のH16毎月勤労統計調査結果）
② 費用の更新	
<ul style="list-style-type: none"> ・全体事業費：1.8億円（現在価値化前） ・維持管理費：1.9百万円/年（扇田地区の実績に基づき設定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体事業費：6.6億円（現在価値化前） ・維持管理費：3.3百万円/年（全体事業費の0.5%で設定）

【費用対効果検討結果】

■ H19～H33：全体事業

B/C = 1.6

整備期間：平成19年度～平成33年度

事業費内訳（現在価値化前）（H19～H33）

・水辺整備事業：約1.8億円
小計：約1.8億円

維持管理費内訳（現在価値化前）（H21～H78）

・水辺整備事業：約1.0億円
小計：約1.0億円

費用計（現在価値化前）（H19～H78）

・水辺整備事業：約2.8億円
小計：約2.8億円

■ H26～H33：残事業

B/C = 1.2

整備期間：平成26年度～平成33年度

事業費内訳（現在価値化前）（H26～H33）

・水辺整備事業：約1.0億円
小計：約1.0億円

維持管理費内訳（現在価値化前）（H29～H78）

・水辺整備事業：約0.4億円
小計：約0.4億円

費用計（現在価値化前）（H26～H78）

・水辺整備事業：約1.4億円
小計：約1.4億円

■ H19～H20：完了地区

B/C = 2.0

整備期間：平成19年度～平成20年度

事業費内訳（現在価値化前）（H19～H20）

・水辺整備事業：約0.8億円
小計：約0.8億円

維持管理費内訳（現在価値化前）（H21～H70）

・水辺整備事業：約0.6億円
小計：約0.6億円

費用計（現在価値化前）（H19～H70）

・水辺整備事業：約1.4億円
小計：約1.4億円

<全体事業> 【米代川水系】

費用対効果分析

■ 対象期間：H19～H33

項 目			金 額 等
C 費用	建設費[現在価値化] ※1	①	194 百万円
	維持管理費[現在価値化] ※2	②	45 百万円
	総費用	③=①+②	239 百万円
B 効果	便益[現在価値化] ※3	④	382 百万円
	残存価値[現在価値化] ※4	⑤	2 百万円
	総便益	⑥=④+⑤	384 百万円
費用対便益比 (GBR) B/C ※5			1.6
純現在価値 (NPV) B-C ※6			145 百万円
経済的内部収益率 (EIRR) ※7			8.1%

※表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある。

[費用]

※1：建設費はデフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い費用を算定。

・全体事業 182 百万円 → 現在価値化 194 百万円

※2：維持管理費は評価対象期間内（整備期間+50年間）での維持管理費に対し、デフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い算定。維持管理費は、完了地区である扇田地区の実績維持管理費の規模単価を用いて設定。

[便益]

※3：整備により発生する便益を、評価対象期間（整備期間+50年間）、社会的割引率 4%を用いて現在価値化し算定。

※4：残存価値は評価対象期間後（50年後）の施設の残存価値に対し、現在価値化し算定。

[投資効率性の3つの指標]

※5：費用便益比は総便益Bと総費用Cの比（B/C）であり、投資した費用に対する便益の大きさを判断する指標。（1.0より大きければ投資効率性が良いと判断）

※6：純現在価値は総便益Bと総費用Cの差（B-C）であり、事業の実施により得られる実質的な便益を把握するための指標（事業費が大きいほど大きくなる傾向がある。事業規模の違いによる影響を受ける）。

※7：経済的内部収益率は投資額に対する収益性を表す指標。今回の設定した社会的割引率（4%）以上であれば投資効率性が良いと判断（収益率が高ければ高いほどその事業の効率は良い）。

現在価値化：ある一定の期間に生ずる便益を算出するには、将来の便益を適切な“割引率”で割り引くことによって現在の価値に直す必要がある。

社会的割引率：社会的割引率については、国債等の実質利回りを参考に4%と設定している。

事業の投資効果

<残事業> 【米代川水系】

費用対効果分析

■ 対象期間：H26～H33

項 目			金 額 等
C 費用	建設費[現在価値化] ※1	①	95 百万円
	維持管理費[現在価値化] ※2	②	15 百万円
	総費用	③=①+②	110 百万円
B 効果	便益[現在価値化] ※3	④	126 百万円
	残存価値[現在価値化] ※4	⑤	1 百万円
	総便益	⑥=④+⑤	127 百万円
費用対便益比 (GBR) B/C ※5			1.2
純現在価値 (NPV) B-C ※6			17 百万円
経済的内部収益率 (EIRR) ※7			4.9%

※表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある。

[費用]

- ※1：建設費はデフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い費用を算定。
・残事業 102 百万円 → 現在価値化 95 百万円
- ※2：維持管理費は評価対象期間内（整備期間+50 年間）での維持管理費に対し、デフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い算定。維持管理費は、完了地区である扇田地区の実績維持管理費の規模単価を用いて設定。

[便益]

- ※3：整備により発生する便益を、評価対象期間（整備期間+50 年間）、社会的割引率 4%を用いて現在価値化し算定。
- ※4：残存価値は評価対象期間後（50 年後）の施設の残存価値に対し、現在価値化し算定。

[投資効率性の 3 つの指標]

- ※5：費用便益比は総便益Bと総費用Cの比（B/C）であり、投資した費用に対する便益の大きさを判断する指標。（1.0 より大きければ投資効率性が良いと判断）
- ※6：純現在価値は総便益Bと総費用Cの差（B-C）であり、事業の実施により得られる実質的な便益を把握するための指標（事業費が大きいほど大きくなる傾向がある。事業規模の違いによる影響を受ける）。
- ※7：経済的内部収益率は投資額に対する収益性を表す指標。今回の設定した社会的割引率（4%）以上であれば投資効率性が良いと判断（収益率が高ければ高いほどその事業の効率は良い）。

現在価値化：ある一定の期間に生ずる便益を算出するには、将来の便益を適切な“割引率”で割り引くことによって現在の価値に直す必要がある。

社会的割引率：社会的割引率については、国債等の実質利回りを参考に 4%と設定している。

費用対効果分析

■ 対象期間：H19～H20

項 目			金 額 等
C 費用	建設費[現在価値化] ※1	①	99 百万円
	維持管理費[現在価値化] ※2	②	30 百万円
	総費用	③=①+②	129 百万円
B 効果	便益[現在価値化] ※3	④	256 百万円
	残存価値[現在価値化] ※4	⑤	1 百万円
	総便益	⑥=④+⑤	257 百万円
費用対便益比 (GBR) B/C ※5			2.0
純現在価値 (NPV) B-C ※6			128 百万円
経済的内部収益率 (EIRR) ※7			10.2%

※表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある。

[費用]

- ※1：建設費はデフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い費用を算定。
・完了地区 80 百万円 → 現在価値化 99 百万円
- ※2：維持管理費は評価対象期間内（整備期間+50 年間）での維持管理費に対し、デフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い算定。維持管理費は、実績の維持管理を用いて設定。

[便益]

- ※3：整備により発生する便益を、評価対象期間（整備期間+50 年間）、社会的割引率 4%を用いて現在価値化し算定。
- ※4：残存価値は評価対象期間後（50 年後）の施設の残存価値に対し、現在価値化し算定。

[投資効率性の 3 つの指標]

- ※5：費用便益比は総便益Bと総費用Cの比（B/C）であり、投資した費用に対する便益の大きさを判断する指標。（1.0 より大きければ投資効率性が良いと判断）
- ※6：純現在価値は総便益Bと総費用Cの差（B-C）であり、事業の実施により得られる実質的な便益を把握するための指標（事業費が大きいほど大きくなる傾向がある。事業規模の違いによる影響を受ける）。
- ※7：経済的内部収益率は投資額に対する収益性を表す指標。今回の設定した社会的割引率（4%）以上であれば投資効率性が良いと判断（収益率が高ければ高いほどその事業の効率は良い）。

現在価値化：ある一定の期間に生ずる便益を算出するには、将来の便益を適切な“割引率”で割り引くことによって現在の価値に直す必要がある。

社会的割引率：社会的割引率については、国債等の実質利回りを参考に 4%と設定している。

【感度分析】

費用対便益分析の結果に及ぼす要因について、要因別感度分析を実施した。影響の要因は以下の通りである。

- ・ 残事業費変動 (-10% ~ +10%)
- ・ 残工期変動 (-2年 ~ +2年)
- ・ 便 益 変 動 (-10% ~ +10%)

○ 全体事業：H19～H33

単位：億円

	基本 ケース	残事業費変動		残工期変動		便益変動	
		+10%	-10%	+2年	-2年	+10%	-10%
総費用 C (現在価値化後)	2.4	2.5	2.3	2.4	2.4	2.4	2.4
総便益 B (現在価値化後)	3.8	3.8	3.8	3.7	3.9	4.0	3.7
費用便益比 B/C	1.6	1.5	1.7	1.6	1.6	1.7	1.6

※表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある。

○ 残事業：H26～H33

単位：億円

	基本 ケース	残事業費変動		残工期変動		便益変動	
		+10%	-10%	+2年	-2年	+10%	-10%
総費用 C (現在価値化後)	1.1	1.2	1.0	1.1	1.1	1.1	1.1
総便益 B (現在価値化後)	1.3	1.3	1.3	1.2	1.4	1.4	1.1
費用便益比 B/C	1.2	1.1	1.3	1.1	1.2	1.3	1.0

※表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある。

※なお、分析結果については四捨五入の桁数によって数値が変わることがある。

事業の投資効果

【事業による効果（地域のイベント活動等）】

- ・ 扇田地区では、年数回地域イベントが開催され、地域の交流の場として活用されている。また、8月には伝統行事であるひない盆祭りの灯籠流し会場として活用され、地域活性化に寄与している。
- ・ 米代川川下りが毎年8月に開催され、田代地区までの舟下りを楽しむ等、環境整備箇所が有効に活用され、観光振興に寄与している。

〈河川公園祭り〉



〈米代川舟下り〉



〈高水敷での伝統行事（灯籠流し）〉



〈灯籠流しの内容〉

- ・ 扇田民芸振興会による「送り太鼓演奏」
- ・ 扇田仏教会による読経、参加者のお参り
- ・ 各自が持参する灯籠を仮設の足場より流す
- ・ 送り花火の打ち上げ



〈ロードレース・駅伝大会〉



〈スポーツ少年団の練習風景〉



【事業による効果（社会的評価等）】

- ・ 扇田地区は、整備後の「川の通信簿」において三つ星（普通）の評価であるが、地域の維持管理によりゴミが無く、広く整備した広場や散策路についての評価が高い。
- ・ また、悪い点としてあげられていたトイレについては、その後、自治体がトイレ整備を行っており改善されている。

■平成21年度 川の通信簿

総合的な成績：☆☆☆（三ツ星）
普通

今後の事業スケジュール

No.	点検項目	現在の状況			整備必要 %	重要度			
		良い	普通	悪い		非常に重要	重要	普通	不要
1	豊かな自然を感じますか		○		22%		○		
2	水はきれいですか		○		11%		○		
3	流れている水の量は十分ですか		○		11%		○		
4	ゴミがなくきれいですか	○			11%		○		
5	危険な場所がなく安全ですか		○		22%		○		
6	景色はいいですか		○		22%		○		
7	歴史・文化を感じますか		○		0%			○	
8	河川敷には、近づきやすいですか	○			0%			○	
9	水辺へ入りやすいですか	○			0%		○		
10	広場は利用しやすいですか		○		33%		○		
11	休憩施設や木陰は十分ですか			○	78%		○		
12	散歩はしやすいですか		○		22%		○		
13	トイレは使いやすいですか			○	86%		○		
14	案内看板はわかりやすいですか		○		63%			○	
15	駐車場は使いやすいですか		○		25%			○	

■ 良い点 ■ 悪い点



〈自治体により整備されたトイレ〉



〈公園管理組合により設置された花壇〉

■平成21年度 川の通信簿

◆扇田地区の特に良い点

- ・階段が広く、水辺に近づきやすい
- ・広場が広い
- ・駐車場が広い
- ・**ゴミが無い**
- ・整備した散歩コースがよさそう

◆扇田地区の改善すべき点

- ・石が多く、歩きづらい
- ・緑が少ない
- ・休憩施設、トイレの整備が必要

事業の進捗状況

【事業実施状況（平成 25 年度末時点）】

- (1) 全体事業費：約 1.8 億円
- (2) 整備済み事業費：約 0.8 億円
- (3) 進捗率：全体の 44%（事業費ベース）
- (4) 残事業費（整備予定箇所）：約 1.0 億円

今後の事業の見通し

「根下戸地区かわまちづくり」は平成 26 年度の事業着手を目指しており、地域住民等と協働で事業を推進することにより、米代川流域の連携交流、地域活性化を図っていく。

(単位：億円)

地区名	事業費	整備内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	備考
扇田地区	0.8	高水敷整正、階段等	■															
根下戸地区	1.0	管理用通路(散策路)、 低水護岸、階段、坂路、 高水敷整正等								■								

再評価

再評価予定

事後評価予定

スケジュール

コスト削減の取組み

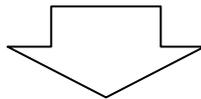
環境整備事業で用いる土砂については、購入土ではなく、河道掘削により発生する土砂を流用することでコスト削減を図っている。



〈河道掘削の状況〉



〈高水敷整正に流用〉



〈扇田地区河川緑地〉

コスト削減の方針

また、維持管理の面では、地域の団体より清掃活動にご協力いただいている。



〈地区の団体によるクリーンアップ活動〉

【秋田県知事からの意見】



建政 - 1499
平成25年11月22日

国土交通省
東北地方整備局長 様

秋田県知事 佐竹 敬久



東北地方整備局所管の再評価対象事業の対応方針（原案）
作成に係る意見照会について（回答）

平成25年11月19日付け国東整企画第108号で依頼のありましたこのこと
について、次のとおり当県の意見を提出します。

【河川事業】

○米代川総合水系環境整備事業

河川の水辺の環境整備により、河川空間が地域イベントや住民の健康づくりに
活用され、地域の活性化が期待できるほか、環境学習等を通して河川愛護の意識
向上にもつながることなどから、事業の継続に異議はありません。

なお、根下戸地区など、今後の整備予定箇所においては、地域住民や関係市町
村と十分な連携・調整を図りながら事業の推進をお願いします。

○子吉川直轄河川改修事業

子吉川流域においては、度重なる洪水被害の軽減に加え、濁水対策等の水資源
の活用など、流域一体となった計画的な治水対策が必要となっており、特に、上
流部の鳥海ダムの整備は、地元の強い要望もあり、県としても総合的観点から極
めて重要な事業と認識していますので、事業の継続に意義はなく、引き続きコス
ト縮減に努めながら、より一層の事業促進をお願いします。

担 当 _____



県
か
ら
の
意
見

原案：事業継続

(理由)

整備が完了した扇田地区については、利用者が増加し、河川清掃活動など地域との協力体制も構築されるなど、事業の効果が認められる。

整備を予定している根下戸地区については、地元自治体等より地域活性化の核として寄与することが期待されており、費用対効果等の投資効果も確認できる。